

研究テーマ**「多様な人々と協働し、未来に向け新たな価値を生み出していく力を育む特別活動」****「思いや願いをもって、主体的に取り組む学級活動（１）の指導の工夫」****～ 1年間を見通した指導の積み重ねを通して～**

八王子市立横川小学校 鈴木 未優

3年担任 在籍32名

1. 研究テーマと本実践とのかかわり

研究主題にある「多様な人々と協働し、未来に向け新たな価値を生み出していく力」を育むためには、合意形成する力が必要不可欠であると考えた。合意形成は、他者に迎合することでも、相手の意見を無理にねじ伏せることでもなく、他者の意見も受け入れつつ自分の考えも主張し、異なる意見や考えを基に、様々な解決の方法を模索したり、折り合いを付けたりすることである。しかし、ただ出された意見を合わせたり、譲り合ったりすることは、合意形成ではない。思いや願いがこもった意見を出し合い、共通点や相違点を確認したり、分類したり、共通の視点をもって比べ合ったりするとともに、よりよいものを選んだり、意見の違いや多様性を生かしたりして、最適解を創り出すことこそが合意形成であると考えた。つまり、児童が思いや願いをもって一連の活動に取り組むことが、「多様な人々と協働し、未来に向け新たな価値を生み出していく力」を育むための第一歩である。しかし、その第一歩も、一朝一夕で身に付くものではなく、1年間を見通し、児童の自発的、自治的な活動を効果的に指導・支援することによって、身に付いていく。

そこで、本提案では、児童の思いや願いを育むための学級活動（１）における1年間を見通した指導の工夫について提案する。

2. 議題 「2学期お疲れ様会をしよう」

学級活動(1)学級や学校における生活づくりへの参画 ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決

3. 議題について**(1) 児童の実態**

本学級は、男子19名、女子13名の計32名の学級である。2年生への進級の際には、どちらのクラスも、クラス替えや担任が変わることもなかった。明るく素直な児童が多く、3年生から始まる新しい学校生活に期待感をもっている様子だった。また、本学級は、学習や対人関係、感情のコントロールなどに困難を抱え、特別な支援を要する児童が多い。そのため、各教科の授業でも学習内容の重点化を図ったり、視覚的な支援を取り入れたりして、どの子にとっても分かる授業、安心して学ぶことができる教室になるよう努めている。

年度当初の4月には、学級活動（３）の時間を使って、学級会オリエンテーションを行った。学級会の意義や輪番制で行う司会グループの役割、一連の流れなどについて説明したが、経験がなかったり、乏しかったりしたため、中々一連の活動のイメージが湧いていなかった。児童の実態やこれまでの経験を踏まえ、各学級会の指導内容を重点化し、1年間を見通して段階的に指導しているところである。12月現在、学級会の意義や話合いの基本的な進め方を理解して、教師の助言を受けながら、自分たちで見いだした諸問題の解決に向けた話合いや実践を繰り返しているところである。

(2) 議題選定の理由

学級会における議題は、児童のつぶやきや普段の会話から、「したい!」「決めたい!」「解決したい!」

の視点で、議題が出されるように声掛けをしている。

今回、議題コーナーには、

工作大会をしよう	3の1のアルバムを作ろう	2学期お疲れ様会をしよう
クリスマスパーティーをしよう	4年生への準備をしよう	

が議題として出されていた。出された提案カードを計画委員会で整理し、一番必要感のある議題は何かについて話し合い、「2学期お疲れ様会をしよう」が望ましい議題であると考え、本議題が選定された。理由としては、「1年間で一番長い2学期。学習や行事、学校生活でたくさん頑張った自分や友達にお疲れ様を言いたい」ということであった。

そこで、本時では、「何をするか」「振り返ったり、お疲れ様を言い合ったりするための工夫をどうするか」「役割分担をどうするか」という3点について互いの意見を尊重しながら協力して計画を立て、実践できるように指導していく。また、「2学期お疲れ様会」を通して、お互いの頑張ったことを認め合えるよりよい人間関係を築いたり、「3学期もこのメンバーで頑張っていこう」というよりよい学級生活をつくったりしようとする態度を養っていききたい。

4. 指導の工夫

児童の実態（4月）

- 素直な子供たち。指導されたことを一生懸命行おうとする。
- 意欲的であり、興味・関心をもって学ぶ。
- 特別な支援を要する児童が多く、指導内容の重点化や視覚的支援が必要である。
- 学級会の経験が不足しており、一連の活動の意義や基本的な進め方を理解していなかった。
→繰り返していないことで、思いや願いをもって学校生活を送っていない。

目指す児童の姿

- 集団活動の意義や基本的な進め方を理解し、見通しをもって活動することができる。
- 学級生活の課題を見だし、課題解決に向けて合意形成し、実践することができる。
→繰り返すことで、思いや願いをもって、主体的に社会参画できる子になってほしい。

指導の工夫

① 指導内容の重点化を図った段階的な指導

経験が乏しかったり、特別な支援を要する児童が多かったりする実態から、1年間を見通して、学級会において児童が行う活動を4つの段階に分け、指導内容を重点化している。また、オリエンテーションは、年度当初だけでなく、学級の実態に合わせて適宜行っている。

○第1段階

ハーフ&ハーフ（1単位時間の前半で話し合い、残った時間で決めたことを実践）を繰り返し行い、「みんなで話し合って、みんなで決めて、みんなでやったら楽しかった」という思いを積み重ねた。

○第2段階

提案理由の練り上げや振り返りの充実など、事前・事後の活動を取り入れ、一連の学習過程で活動することの意義を体感した。

○第3段階（12月現在）

問題の発見から振り返りまで自発的・自治的に活動できるよう、議題提案や議題選定、計画委員会の充実などを取り入れた。

○第4段階

これまで理解したり、身に付けたりしたことを生かして、学校生活における諸問題を見だし、その解決に向けて自発的・自治的に活動して、学級や学校生活の充実と向上を図っていく。

② 学級会コーナー・グッズの充実【資料②】

児童の自発的・自治的な活動を活性化させるために、児童が見通しをもって協働的に活動したり、思考を深めたりできる用具や環境の充実に努めている。

○提案カード・議題ボード

学級や学校生活上の諸問題に気付いたときにいつでも議題として提案できるよう、学級活動コーナーに提案カードと議題ボードを置き、学級や学校生活の向上に対する関心を高めている。また、議題BOXではなく、議題ボードとすることで、今提案されている議題が可視化される。

○学級会までの流れの掲示

問題の発見から振り返りまでの学習過程を可視化している。話し合いに向けて見通しをもち、自分たちで活動を進められる。

○議題整理表

計画委員で様々な議題案の中からどの議題を選ぶか、主体的に話し合えるようにツールとして議題整理表を活用している。複数出されている議題案を、議題整理表の「今すぐ解決するべきか」「学級全員に関係があるか」「自分たちの力で解決できるか」「工夫できそうか」「学校のくらしがよくなるか」の視点で比較するで、「その議題でいい」ではなく、「その議題がいい」「その議題でなければならない」と児童が本気で取り組みたい望ましい議題を自分たちで話し合い、選定することができる。

③ 教師の適切な指導・助言

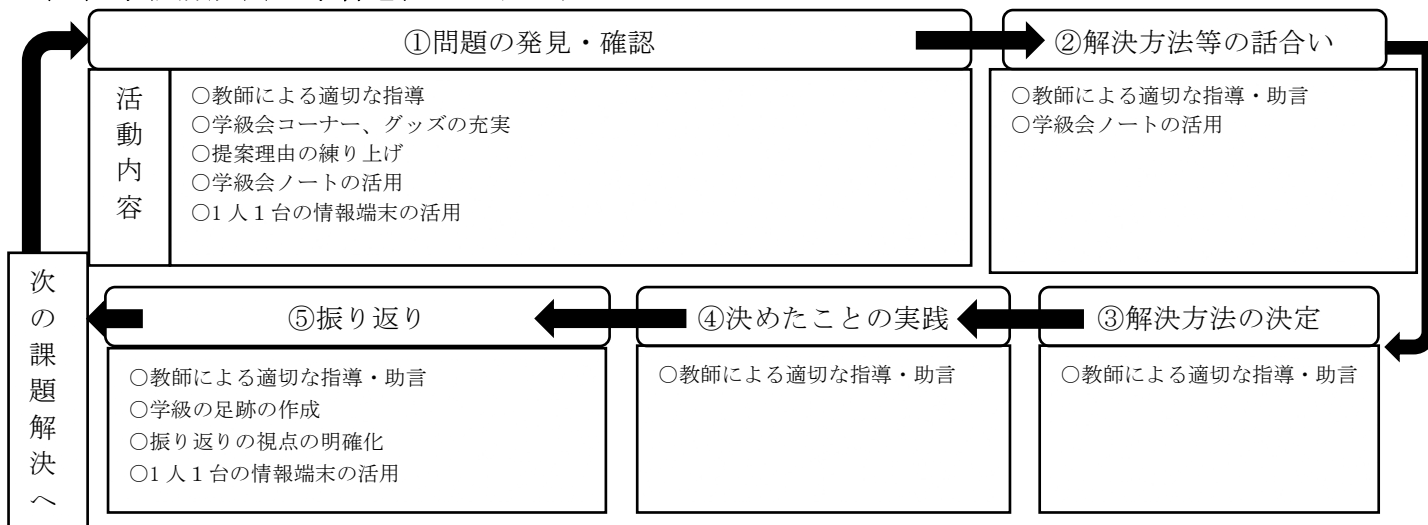
学級会中には、児童の主体性を尊重しつつ、誰かを傷つけることが予想されたり、自治的な活動の範囲を超えたりしそうな場合はもちろん、話し合いが混乱したり、司会グループの児童が困ったりしているときに、意見の整理や解決方法について指導・助言を行うようにしている。

終末の助言では、司会グループへのねぎらいや今回の学級会のよかったこと、次回の学級会に向けた課題の3点について話すようにしている。

④ 1人1台の情報端末の活用【資料③】

本校は、1人1台の情報端末として、Chromebookを使用している。学級活動（1）では、Jamboard(デジタルホワイトボード)を、めあてと振り返りの共有の場面で活用している。めあての共有では、自分のページに付箋で一連の活動に向けた自分のめあてを入力する。振り返りの共有では、めあてを入力した自分のページに、学級会ノートに記入した振り返りをカメラで撮影し、自分のページの背景として設定する。そして、付箋にコメントを入力し、児童同士の相互評価を行う。1枚のページ内に一連の活動に向けた児童のめあてと振り返りがあることで、めあてや振り返りに沿った相互評価を行うことができる。

(1) 学級活動(1)の学習過程における手立て



5. 活動の実際

(1) 事前の活動

日時	○計画委員の活動 ☆学級全体の活動	指導上の留意点
12月6日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ☆話し合いたい議題を議題コーナーに提出する。(12月3日まで) ○議題を選定する。 ☆議題を決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童のつぶやきや普段の会話から議題になりそうなものを議題コーナーに提出するよう声かけをする。 ○議題整理表を活用し、必要感のある議題を選定する。
12月7日(火) 8日(水) 9日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ○提案理由を練り上げる。 ○学級会ノートを作成する。 ☆学級会ノートに自分のめあてと考えを書く。(家庭学習) ○話し合いのシミュレーションをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○提案理由がより具体的になるように、キーワード化を図る。 ○決まっていることを明確にし、自治的範囲を超えることがないように配慮する。
12月10日(金) 朝学習	<ul style="list-style-type: none"> ☆Jamboardに自分のめあてを入力し、共有する。 	

(2) 本時の指導計画

活動内容（話し合いの順序）	○指導上の留意点 ☆目指す児童の姿と評価方法
1 はじめの言葉 2 司会グループのメンバー紹介 3 議題の確認 「2学期おつかれ様会をしよう」 4 提案理由・決まっていることなどの確認	○提案理由や決まっていることが共通理解できるようにする
<p>今 : 2学期、社会科見学や作品展、体育やリコーダーなど、たくさんがんばった。</p> <p>何をして : 2学期お疲れ様会をして</p> <p>ゴール : 頑張ったことを振り返ったり、「お疲れ様」と言い合ったりしたい。</p>	<p>日時 : 12月22日（水） 5時間目</p> <p>場所 : 3の1教室</p> <p>準備 : 13日～21日の朝中昼休み</p>
5 話し合い <u>話し合うこと1</u> 「何をするか」 <u>話し合うこと2</u> 「振り返ったり、お疲れ様を言い合ったりするための工夫」 <u>話し合うこと3</u> 「役割分担をしよう」	○提案理由に沿って話し合えるように、必要に応じて助言する。 ○自治的範囲を越えたときや支援が必要なときは助言する。 ☆提案理由に沿って考えたことを伝えているか。（観察） ☆友達の意見をすすんで聞こうとしているか。（観察）
6 決まったことの発表 7 振り返り 8 先生の話 9 終わりの言葉	○全員で決定事項を確認できるようにする。 ○個人名を挙げながら具体的に伝え、次の活動への意欲付けをする。

(3) 事後の活動

日時	活動内容	指導上の留意点
12月13日(月) ～ 12月21日(火) 休み時間	<p>【集会に向けた準備】</p> <p>○集会の準備をする。</p>	○一人ひとりが役割をもって参加できるようにする。
12月22日(水) 5校時	<p>【実践】</p> <p>○「2学期お疲れ様会」</p>	○集会の目的からそれないようにし、教師もともに参加する。

6. まとめ

成果

- 指導内容を4つの段階に分け、重点化したことで、一連の活動の意義や基本的な進め方を一つ一つ確実に理解することができた。
- 学級会コーナー・グッズの充実は、児童が見通しをもって自主的に活動することに効果的であった。
- 1人1台の情報端末の活用は、思考の共有や児童同士の交流において効果的であった。学校での休み時間や家庭でコメントを送る児童もいた。
- 一連の活動を繰り返すうちに、各教科の学習でも、自分のめあてをもって学習したり、友達の意見を共感的に聞いたりするなど、学級集団づくりや生徒指導上の効果も見られた。

課題

- 司会グループの準備が不十分だったため、話し合うこと③まで話し合うことができなかつたり、教師が介入して話し合いを整理しなければならない場面が多かつたりした。
- 振り返りでは、振り返る視点をより明確にして、自分や友達、クラスの成果や課題を見付け、次に生かせるようにする。
- 児童全員が課題解決に向けて自分事にして取り組めるよう、事前の活動を充実させる。
- 引き続き、自発的、自治的な活動を繰り返し、児童の思いや願いを育んでいきたい。

資料①「学級会の板書」



資料②「学級会コーナー・グッズ」



学級会 議題整理表 第12回 学級会 に向けて... 司会 G D G

今回出された議題たち	議題を選びどきの、してん →	○今すぐかいつしなけれはならない問題か	○今すぐかいつしなけれはならない問題か	○学級全員にかんけいのある問題か	○学級全員にかんけいのある問題か	○自分でその力でかいつできる問題か	○自分でその力でかいつできる問題か	○工夫できそうな問題か	○工夫できそうな問題か	○学校のくじがきんごも問題か	○学校のくじがきんごも問題か
工作大会		△	◎	○	△	○	△	○	○	○	○
クリスマス会		◎	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎
アルバムづくり		△	◎	△	△	○	△	○	○	○	
ぼたんゲーム		○	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	
いすのゲーム		△	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	
4年生のじゅんぱをいう		△	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	
2学期おつかれ様会		◎	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	

資料③「Jamboard (デジタルホワイトボード)より抜粋」

2500

字がきれいだしいっぱい書いたね。○○

○○くん頑張っていたよね。ゴールを目指して意見を言うことってとってもいいことだよね！○○

友達の見解と自分の意見をくらべることを頑張ったんだね。次も頑張ってみよう！○○

わたしががんばったことは、発表している人の意見と自分の意見をくらべることです。どうしてかという、自分のめあてをたっせいしたかったからです。わたしは○○○くんががんばっていたと思いました。どうしてかという、「発表した人にみんなでおつかれさまといういいと思います。」と言って、提案理由に「おつかれさま」と言い合ったりしようとして提案理由のことを考えていて、がんばっているなと思ったからです。次は、○○くんみたいに提案理由のことを考えたり、時間のことを考えたりすることをがんばりたいと思いました。

めあて
発表している人の意見と自分の意見をくらべて、自分の意見をもっとよくしたいです。

※実際には、学級会ノートに書いたものを写真で撮影した振り返りを背景として設定します。

